

令和元年度大淀幼稚園学校自己評価結果公表シート

1、本園の教育目標

夢のある楽しい活動や体育活動などを通して豊かな心を育て、脳や感覚、基礎的運動能力の発達をはかり、将来の学習に対応できる十分な力を養うことを本園の教育の目的とする。

2、本年度重点的に取り組む目標

新幼稚園教育要領における「幼児期のおわりまでに育てほしい10の姿」を中心に、共通理解をはかり、園内研修等を通して教員集団としての質を高める。また、昨年より園内研修において「マナー研修」を行っているが、形だけではなく相手を思いやる気持ちを醸成し、職員同士、また保護者と協力的に教育環境を作り上げていく。

3、評価項目と取り組み・達成及び評価

評価項目	取り組み
1) 教育課程の編成と共通理解	1) 今年度は園内研修を5領域に立ち返って、幼稚園本来の保育のあり方を模索した。
2) 教職員個々の資質を高めるとりくみ	2) 園外での研修に積極的に参加した。また園内研修においては外部講師を招いてマナーの研修を行い、保護者対応のみならず、教員相互の和の実現に努めた。
3) 子どもたちの情報の共有	3) 子どもたちの行動・言葉などについて、職員会議だけではなく、日ごろからできるだけ伝え合うように心がけた。
4) 子どもたちの自発性や知性を高める取り組み	4) 造形遊びなどにおいて個々で考えたことを形にしたり、お友だちを誘ったりして遊びを進めていく活動を計画的に行った。また、ひらがなの読み書きなども積極的に行い、知性と自主性が総合的に向上するように意識的に保育を行った。
5) 規範意識や道徳性を育む取り組み	5) 日頃からどうしてルールを守って行動する必要があるのかを子どもたちに問いかけ考える。
6) 保護者との連携	6) 子どもたちの様子を伝え、良いところや問題点を伝えながら連携してお互いが連携して子どもたちの育ちにかかわっているという意識を持つ。
7) 防犯対策	
8) 施設の安全対策	
9) ICT化	

	<p>7) 定期的に職員間で防犯訓練を行った。</p> <p>8) 遊具や施設については職員による点検を行っているが、園舎に老朽化がみられるため来年度は園舎の増改築を行い、より良い保育を実現できるように努める。また、そのための具体的なプラン作りを今年度中に進める。</p> <p>9) 職員の負担軽減、保護者の利便性のために園児管理システム Brain を導入した。</p>
--	--

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

「幼児期のおわりまでに育てほしい10の姿」を中心に共通理解を図るように園内研修を進めてきた。

日頃から職員間で細やかな情報交換を行い、集団としての和は育っている。

5、今後取り組むべき課題

大阪市の子どもの学力が低迷しているが、幼児期の教育の質の向上が急務である。今年度末までに園舎の建て替えが完了する予定であるが、より良い保育環境を整えるように整備した。新園舎においては利用できる部屋を増やして室内でも子どもたちが伸び伸びと遊べる環境をつくる。未就園児については、現在未就園児教室は施設のキャパシティの関係で現在は行っていないが、在園児の保育に影響が出ない形での、2歳児の育ちを重視した保育を検討する。

保育者の質の担保としては処遇の改善などで人員の確保に努める。

また、今後とも園内研修を積極的に行い、教員相互で見せ合うことと進めてゆく。その際、見学する保育を批判的に見るのではなく、自らの学びとして謙虚にまた肯定的にとらえてなんでも言い合える教職員の環境を醸成する。

6、財務状況について

公認会計士による監査の結果、適正に運営されていると認められている。

7、学校関係者評価

運営は適切であり、特に指摘すべき事項はなく妥当である。